

平成20年度 本部町・南富良野町親善交流事業 南の国の真夏に挑む体験の旅



「友好の町」沖縄県本部町との間で平成3年から行われていた親善交流事業は今年で18回目を迎え、「南の国の真夏に挑む体験の旅」として、6月30日から7月4日までの4泊5日の日程で、南富良野町交流団（各小学校6年生児童24名・随行者4名）が本部町を訪れました。

6月30日、午前5時30分頃に本町を出

発した交流団一行は、飛行機を乗り継ぎ、午後6時すぎに本部町に到着。児童の皆さんは、熱烈な歓迎を受け歓迎夕食会に出席し、体験の旅での抱負を元気に述べ、よさこいソーランの華麗な舞を披露しました。また、今年1月に南富良野町を訪問した本部町の児童との再会も果たし、交流を深めました。

翌日には、伊豆味バイン園の見学や上本部小学校児童との交流、バナナポート体験を楽しみ、3日目には、児童の皆さんが一番楽しみにしていた海水浴や美ら海水族館の見学などを行いました。この日の夜には、ホームステイ先の家庭で、家族との交流を深めました。

4日目には本部町を離れ、ひめゆりの塔、平和の礎などを見学。翌日には、真っ黒に日焼けした姿で元気に帰町しました。

7月17日に行われた解散式では、児童一人ひとりから発表があり、美ら海水族館の見学、海水浴やバナナポートの体験がいっぱい出になったと感想を話していました。また、本部町児童との交流を通してたくさんの方達と交流できたとの声もありました。

来年の2月2日からは、本部町交流団が本町を訪れ、冬の北海道を体験する予定です。

札幌南ふらの会総会

札幌市や札幌生活圏に在住する本町出身の方々により結成されているふるさと会『札幌南ふらの会（山名康郎会長）』の平成20年度総会が7月1日、札幌市内のホテルロイトン札幌で行われました。

出席した38名の会員を前に池部町長が、ふるさとの現況を交えて挨拶を行い、厳しい財政事情の中でも元気に頑張っている南富良野町をアピールしました。



総会終了後は、来賓や地元からの参加者を含む57名の皆さんが集い懇親会が開かれ、本町の新たなご当地グルメである「なんぷエゾカツカレー」のテレビ放送DVDを視聴したほか、本町で栽培されたメロンやもち米などが当たる抽選会が行われ、賑やかな雰囲気の中、会員の皆さんは、近況報告や昔話に花を咲かせながら、楽しい時を過ごしていました。

有事に備えて

日頃の訓練成果を遺憾なく発揮

消防の基礎訓練を演習し、規律正しい消防技術と団体行動の迅速適正を図るとともに、消防人としての資質の向上と士気の高揚を期し、本町消防組織の強固なる団結を図り有事に対処することを目的に、平成20年度南富良野消防総合演習が7月6日、消防職員と消防団員、特別参加の陸上自衛隊上富良野駐屯地第四特科群第131特科大隊の隊員など合わせて100名が参加して、幾寅小学校グラウンドを会場に行われました。

開会式に引き続き、陸上自衛隊上富良野駐屯地第四



自衛隊員による水防工法

特科群第131特科大隊により、自然災害を想定した堤防の決壊を未然に防止する水防工法「月の輪工法」の展示訓練が行われ、消防団員や多くの来賓が見守るなか、手際よく土嚢が積みられました。

南富良野支署救急隊による展示訓練では、乗用車同士を想定して行われ、車両に挟まれた運転手を救出する訓練を本番さながらに展示し、来賓や見学していた町民の皆さんは、固唾をのんで見守っていました。このほか、各分団による



救急隊による展示訓練

小隊訓練やポンプ操法、模擬火災訓練などが行われ、日頃の訓練の成果を十二分に披露しました。

また、会場では、陸上自衛隊上富良野駐屯地第四特科群第131特科大隊による指揮通信車の体験搭乗が行われ、小学生や幼児らが搭乗を楽しんでいました。



模擬火災訓練



指揮通信車の体験搭乗

一〇三柱の英霊の冥福を祈る

先の大戦から63年目を迎え、戦没者一〇三柱の霊を慰めるため、町社会福祉協議会主催による「戦没者追悼式」が7月7日、来賓や遺族の方々61名が参列する中、忠魂碑前でおこなわれ執り行われました。

午前10時、サイレン吹鳴とともに参列者全員で黙祷を捧げたあと、曾慶一介会長が「63年前の悲惨な状況を忘れることなく、二度と悲しみの歴史を繰り返さないことを誓

います。」と式辞を述べ、来賓からの追悼の言葉が続いて、参列者が一人ずつ白菊を供え、尊い犠牲者の冥福を祈りました。

なお、追悼式の挙行にあたり次の方々からご厚志や供物が寄せられました。紙上をもって厚くお礼申し上げます。

○北海 道 様
○南 富 良 野 町 議 会 様
○南 富 良 野 町 遺 族 会 様

- 上川支庁地区連台遺族会 様
- ふらの農業協同組合 様
- JAふらの南富良野支所女性部 様
- 町立歯科診療所 様
- 幾 寅 婦 人 会 様



みず榎の苗木千本が贈呈される

7月9日、福島県郡山市のタムラシステム㈱の田村喜久雄社長が池部町長を訪れ、みず榎の苗木千本を贈呈されました。タムラシステム㈱は、水を取り巻く環境問題を考え様々な商品を開発し国内外で事業展開している企業で、北海道の石狩川流域46市町村で構成する石狩川サミットの活動に共感し、水づくりの一端としてみず榎の苗木を、来年開催される第10期石狩川サミットの開催地で実行委員長を務める池部町長に贈呈されたものです。

寄贈されたみず榎の苗木は、石狩川流域46市町村のうち、希望があった市町村に配布され、石狩川流域での植樹活動に利用されます。



田村社長(左から2人目)が池部町長に苗木を贈呈

まちづくり観光協会総会

昨年4月に設立されたNPO法人南富良野まちづくり観光協会(曾慶一介理事長)の通常総会が7月2日情報プラザで開催されました。

総会では、平成20年度の事業計画・予算について審議が行われ、引き続きほつばや口ケセツの管理業務受託や観光パンフレットを作成することなどが決議され、さらに会員の増強を図りながら、地域が一体となってまちを盛り上げていくことを確認し総会を終了しました。